

22年度役員 19名 各位
㊟事務局・活動局・監査委員 20名

平成22年9月9日
逆瀬台小学校区まちづくり協議会
「ゆずり葉コミュニティ」
会長 中村 一雄
TEL 72-5644

**逆瀬台小学校区まちづくり協議会「ゆずり葉コミュニティ」
10月度役員会開催のお知らせ（ご案内）**

ご多忙のところ、万障繰合わせの上ご出席の程、よろしく申し上げます。

日 時：平成22年10月3日（日） 10：00～
場 所：逆瀬台小学校内 「ゆずり葉コミュニティルーム」

≪ 議 題 ≫

報 告

- (1) 8/3(火)「まちづくり協議会代表者交流会」について (黄地役員)
★ 資料 1～4／8頁「中川市長のレクチャーに対するテーマの提案」
- (2) 8/25(水)夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会について (活動局長)
★ 「移動手段・催事ドア to ドア」の具体化
- (3) 「10/23(土)ゆずり葉まつり」「9/25(土)運動会」について (事務局長)
- (4) 10/31(日)地域活動団体の発表の場「パネル展示会」について (会長)
★ 兵庫県民会館「スポーツクラブ21ひょうご・全県クラブサミット」
ブース展示・クラブ紹介

議 案

- (1) 逆瀬台1丁目市有地「コンビニエンスストア新設計画」について (会長)
★ 8/18(水)⇒市側口頭提案 資料5／8頁&ゆずり葉だより61号

10/3(日)役員会出席 ⇒ 市側：築田市民協働推進課長・坂井政策推進担当課長・吉田政策推進副課長・加茂管財課長 ⇒10時開始

- (2) 8/17(火)「適正規模による校区再編成」について (会長)
★ 資料 6／8頁「小学校区再編について」<考察>

10/3(日)役員会出席 ⇒ 市側：竹内教育委員会管理室次長・上木同学事課長 ⇒11時30分開始

- (3) 社協「年末年始地域ささえ愛助成事業」締切 10/25(月) (活動局長)

** その他事項について

- ★ 「平成22年度8月度役員会」議事録 資料7～8／8頁 (事務局長)

以 上

まちづくり協議会代表者交流会 開催報告

日 時： 平成22年 8 月 3 日(火)10:00～12:00

場 所： 水道局3階 第一会議室

出席者： 下記以外のまちづくり協議会(19)

市民協働推進課 住吉次長、築田課長、平田、後藤

欠席者： 美座小学校区まちづくり協議会

議事概要(要旨)

1 (仮称)まちづくり協議会代表者交流会を開催した経緯について(飯室座長より説明)

- ・ 発端は、昨年のフォーラム実行委員会が始まった頃に、まち協からの実行委員の中からまちづくり協議会間で意見交換や情報提供できる機会を望む声があつた。
- ・ フォーラム実行委員会が全て終わった後、フォーラムまちづくり協議会代表実行委員で話し合い、フォーラムまち協代表実行委員一同からの提案として、ざつぱらんに意見交換や話し合う場(交流会)を全まち協に呼びかけようということになり、その呼びかけを事務局に依頼した。
- ・ 第1回の交流会は4月14日に開催された。全体の意見としてまちづくり協議会は、連合会のような組織を作ることは望んでいないこと、ブロック毎のまとめは有効、今後も、それぞれのまちづくり協議会がそれぞれに活動しながらも、交流の場・意見や情報交換の場を持つことは意味がある、当面ブロックごとに行政が話し合う場を持ち、意見をまとめて次回持ち寄りすることになった。

2 上記1を確認したうえで、さらに第2回交流会(6月22日)での協議事項を確認

- ・ ブロック毎の意見交換会は7ブロック中4ブロックで開催し、内容について文書で説明があつた。
- ・ 改めて、全体をまとめる組織は必要ないが、ブロックごとのまとめは必要と確認した。
- ・ 今後のフォーラム、地域創造会議のあり方について行政から意見を頂きたいと提案があり、次回会議で地域創造会議のあり方について論議することになった。
- ・ 今後はまち協代表者会議に置き換え、3ヶ月に1回程度、行政主導ではなく、まちづくり協議会主体で交流会として運営していくことになり行政も了解した。
- ・ 事務局は市民協働推進課が行う。
- ・ 当面の間、座長は飯室会長にお願いする。

3 今回協議が必要な事項事項

- ・ 地域創造会議のあり方
- ・ 今後の交流会のあり方

- ・ 今後のまちづくり協議会のあり方(第5次総合計画での位置付け、市長・議会・自治会はまちづくり協議会をどう捉えて、何を期待しているか等、まちづくり協議会に求められているものを把握し、認識する。)

4 1～3の説明の後、意見交換で出た意見

※ まちづくり協議会の組織化について

- ・ 座長についてだが、まちづくり協議会の「代表」は本当に必要か？外部(他の組織)との話し合い等に、代表は必要ではないか。
- ・ 座長の他に、副座長を置いてはどうかとの声もあったが、そのように決めることにより、座長や副座長が何かを判断したり決めたりすることも起きる可能性がある。自治会連合会のような連合組織は他のまちづくり協議会からも望まれておらず、ただ交流会等会議のまとめ役としての座長であると認識している。
- ・ まちづくり協議会が1つの事項を決めるにあたり、とても時間がかかり、スローペースである。事を早く進めるために、代表の必要もあるのではないか。
- ・ そもそも、我々は情報が少なく、他のまちづくり協議会が何をしているのかもわからない。そこで、有意義な情報交換や意見交換の場を持つという話ができたものであって、組織をつくるのが目的ではない。
- ・ 当面は座長1人で情報の共有など緩やかにまとめる形で運営したい。

※ 地域創造会議のあり方について

- ・ まちづくり協議会から地域創造会議を見直す声が出てきているが、市はどう認識しているのか。

※ 事務局より若干の経緯を説明。

- ・ 地域創造会議の半分以上の時間は、行政からの伝達に費やされるのは問題である。自治会やPTA等、10あまりの団体が参加しているが、今後の参加はまちづくり協議会のみに限るべきである。
- ・ 地域創造会議の主催は「まちづくり協議会」ではなく「市」であり、市が形式的にしているのが問題である。
- ・ 個人や民生委員を呼んで意見を聞いても、それが地域の意見とは限らない。なんでも一緒にしてはまとまらない会議となる。
- ・ 行政が、「こんな会議をやっています。」と示めず実績つくりのためなら、開催する意味がない。意見交換の場は必要である。自治会を地域創造会議に入れないことは反対で、入ってもらった方が良い。車座集會も良い。大切なのは、結果をどう検証するかである。
- ・ まちづくり協議会には自治会も組織メンバーになっており、今後まちづくりはまちづくり協議会にまとめることが大事。
- ・ まちづくり協議会の役割を果たすにはどうすれば良いかを考え、まちづくり計画にあげ、課題を具体的にすべきである。自分達でできることと、行政の力が必要なことがある。
- ・ 今のままでは、地域経営はできない。
市の組織も、担当課以外は協働のまちづくりに関心も示さない。部長等の管理職も協働のまちづくりを全く知らない状態である。

- ・まちづくり協議会ができ、長いところは19年、その他もすべて10年以上経過した今、当初は何を目的としてまちづくり協議会を作ったのか再確認する時期である。立ち上げに尽力した田中義岳氏の話聞くのも良いのではないかと。
 - ・自治会とまちづくり協議会は2輪であると言われることがあるが、よく理解できない。2輪なら、それぞれが別のものであるが、まちづくり協議会の中に自治会も入り、一緒に協力していくイメージでいる。
 - ・毎年地域創造会議を実施してもあまり意味がない。5年に1度程度の開催でよいのではないかと。
 - ・会議のテーマは自治会とまちづくり協議会と一緒に協議して決めるべきである。
- ※事務局 地域創造会議というのではなく各コミュニティごとに会議をするということはいかがか。
- ・多くのまち協→それは望むこと。

ま と め 今年度は各まちづくり協議会単位での地域創造会議を実施する。(ブロックではなくまちづくり協議会単位で行う)
20まちづくり協議会すべてを年度内に開催する希望があるが、困難なので、希望するまちづくり協議会を優先して行うなどの工夫を考える。

※ 今後のまちづくり協議会のあり方について

- ・今後、交流会は、まち協ができて10年以上経過していること、第5次総計決定時期であることなどを踏まえ、宝塚市のまちづくりの視点から、まちづくり協議会のあり方、役割などについて、市長以下執行部、議会、自治会連合会などとの忌憚りの無い意見交換を通じてまち協自身もそのあり方を考えることとしたい。
- ・まちづくり協議会の在り方について、まず市長以下トップに会議に来ていただき、市長と私達が直接意見交換をするよう、座長名で申し入れをする。
- ・市長に伝えたい事(テーマ)を事前に集め、座長から市長にレクチャーいただいた上で望む。
- ・テーマがあるまちづくり協議会は、15日までに事務局へ提出する。
- ・集まったテーマを座長が整理して市長にレクチャーした後に、全体の会を持つ。

※次回開催について

- ・9月前半又は10月後半とする

以 上

平成22年 8月17日

宝塚市長 中川智子様

逆瀬台小学校区まちづくり協議会
会長 中村一雄
西山小学校区まちづくり協議会
会長 清水光雄

平素は宝塚市の発展 並びに 市民生活の向上にご尽力を賜り、有難く御礼を申し上げます。
さて、去る8月3日に開催されました「まちづくり協議会代表者交流会」において、「まちづくり協議会・協働のまちづくり」についての「考え方（基本認識）」、および「宝塚市のまちづくり（計画）」についての「基本方針」を中川市長から直接お聞きしたい、との強い要望があり、市民協働推進（住吉次長）にその旨の申し入れを行いました。

併せて各まちづくり協議会から「市長にお話しを頂きたい事項」を、事前に文書で行政に提出することになりました。 つきましては「逆瀬台小学校区まちづくり協議会・西山小学校区まちづくり協議会」、両まちづくり協議会連名にて、下記の提案を行わせて頂きます。

中川市長におかれましては明快かつ適宜なお話を賜りますよう、宜しくお願いを申し上げます。

記

中川市長のお考えになる・・・・・・・・

- ①「まちづくり協議会のあるべき姿」とは？（設立の目的・活動内容・等）
- ②「まちづくり協議会と自治会の望ましい関係」とは？（役割分担型・一体化型・等）
- ③ まちづくり協議会は「自主運営（住民主導）の組織」または「行政主導の組織」の何れが望ましいとお考えなのでしょうか？
- ④ まちづくり協議会は「住民の組織（注1）」または「活動家の組織」の何れが望ましいとお考えなのでしょうか？
(注1)・・・個人・団体の意見や提案を受け、それ等を集約し合意を形成して、地域の提案とする「合意形成組織」とすると共に地域に有意義な「個人・団体の活動を支援：情報の提供・広報支援 並びに 活動資金の助成、を行う組織」
- ⑤ “理想的なまちづくり協議会の構成メンバー” はどのようにお考えでしょうか？
- ⑥「協働のまちづくり」についての「理念及び基本方針」とは？
- ⑦「協働のまちづくり」の実施にあたり「宝塚市（行政）のあるべき姿」並びに「市民のあるべき姿」とは？
- ⑧「協働のまちづくり（理念）」を“今後の宝塚市の施策にどのように反映”されますか？

以上

平成22年8月18日

ゆずり葉コミュニティ
役員各位

ゆずり葉コミュニティ
会長 中村一雄

逆瀬台1丁目市有地（ガソリンスタンド横の空地）の有効活用 コンビニエンスストア計画のご意見集約について（依頼）

標記について本日、宝塚市からゆずり葉コミュニティ3役に対し、現在空地となっている場所に、業者土地賃貸によるコンビニエンスストアの新設計画を口頭により提案されました。

当該地は、下記参考欄の通り宝塚市へ平成15年に提出しました当会の「地域ごとのまちづくり計画」提案書の重要項目の一つであります。

しかし、市当局の財政難で実現性に乏しい状況下にあつて、現実的な空地活用による「コンビニエンスストア新設計画」の予定となりました。

つきましては、この件に関して地域としての意見があれば、**10月3日(日)の役員会へ、文書により提出**をお願いいたします。

参考：平成15年12月宝塚市へ提出した「地域ごとのまちづくり計画」
提案書から抜粋

※ (2) ふれあいと助け合いで安心して暮らせるまちづくり

《具体計画》 ①逆瀬台1丁目の市有地(ガソリンスタンド横の空き地)に、児童～高齢者までがふれあえる交流施設(児童館、図書館、老人憩いの家、集会所、体育室、クッキングルーム、健康器具の設置した部屋等の機能を備えた複合施設)または、子ども達がのびのびと遊べる広場の整備を検討する。

以上

「小学校区再編について」 < 考察 >

小学校は、6年間の連続した長期の教育期間（中学校と比べ2倍もの教育期間）があるので、特に、通学中の生徒への配慮・対応が重要である。

この問題は、あらゆるケースを想定したうえで、慎重かつ迅速に対応しなければならない。

① 校区再編成について

◎ 新たに校区の線引を行う・・・新入生に対する経過処置が必要。（2年後から実施 etc.）

◎ 2小学校の選択制地域を設ける・・・隣りの家と子供が通う小学校が異なる・・・地域意識がさらに希薄になりかねない。

（新校区実施までの経過処置・・・ある程度の時間が必要）

◎ 複数の自治会・まちづくり協議会にまたがる改定であり、**合意形成までに時間がかかる可能性が高いが、時間がかかり過ぎては間に合わず、問題が先延ばしされるのみ・・・。 生徒や地域にとって大変不幸な事態を生じる。**

② 通学アクセス路/手段の改善が必要・・・スクールバスの運行等・・・特に、低学年の生徒への配慮が必要。通学の安全性確保、一定の範囲での利便性の確保、などについて充分配慮しないと保護者や地域の協力が得られない。

③ 多人数・多学級の場合。

◎ 教室、運動場・プールなどの施設が生徒数の増大に対応できず、十分な教育活動が妨げられる。

◎ 「地域児童育成会（1～3年の低学年対象・例外あり）」は、学校の施設を活用しているが部屋など施設の確保が困難になり、活動が妨げられる。

（スタッフは嘱託職員/NPO/アルバイトが務めている。所轄は「こども未来部」）

このほか、地域との連携のために必要な「コミュニティルーム」などの施設確保が困難となり、地域住民の活動が妨げられる。

◎ 多人数のため生徒に活気が出やすい。（競争社会への対応力や協調性が磨かれ易い）

④ 少人数・少学級の場合。

◎ 教室、運動場・プールなどの施設が確保でき、十分な教育活動が出来る。

◎ 「地域児童育成会（1～3年の低学年対象・例外あり）」は学校の施設を活用しているが部屋など施設の確保が容易になる。

（スタッフは嘱託職員・NPO/アルバイトが務めている。）

このほか、地域との連携のために必要な「コミュニティルーム」などの施設確保が容易となる。

◎ 少人数のため生徒に活気が出にくい（競争社会への対応力や協調性が磨かれ難い）。

以 上

平成 22 年 8 月 1 日
逆瀬台小学校区まちづくり協議会
「ゆずり葉コミュニティ」
会長 中村一雄
書記 日比明男

「平成 22 年 8 月度役員会」議事録

日時 平成 22 年 8 月 1 日（日）10:00－11:45
場所 ゆずり葉コミュニティルーム
出席者

議決権者： 中村、井篁、千秋、鬼頭、村林、室崎、新田、徳高、黄地、塚本、濱名、
五十嵐、吉山、前川、岡田、嶋村（委任状）石谷（委任状）小松（委任状）
18 名出席 宮谷（欠席）
非議決権者： 国司、西澤、日比

冒頭 逆瀬台小学校 井東校長より「宝塚市すみれ子供安全マップ」の説明があった。
あわせて 9 月 25 日（土）12:30～運動会を予定しているとの報告があった。

《報告事項》

- (1) 協賛金の入金状況について（西澤委員）
15 団体の内パークマンションを除き 14 団体合計¥105,150 入金している。
- (2) 報告に先立ち逆瀬台自治会小松会長所用で欠席のため代わって井篁事務局長より
7 月 31 日の逆瀬台夏祭りの概要報告とそれに参加頂いた方々及びゆずり葉コミュニティの関係者の方々に御礼を申し上げた。
6/22（火）「まちづくり協議会代表者交流会」について（事務局長）
★ 次回会議 8/3（火）
第一回会議の率直な感想、問題点を報告、8/3（火）の第二回会議には井篁局長、
黄地特命部長が出席予定。
- (3) 7/13（火）岡崎市総代会連絡協議会の宝塚市来訪について（会長）
★ 資料 1/11～5/11
資料を参照してまちづくり協議会「ゆずり葉コミュニティ」の組織について
再度詳細に説明が為された。また補助金交付要綱についても同様説明された。
要は組織、地域それぞれの事情によって内容がことなっている。今回の岡崎市
総代会連絡協議会についても宝塚市とは事情が違う。そのへんも踏まえて
ゆずり葉コミュニティ（会長）が説明にあたった事は大変名誉なことといえる。

- (4) 7/17 (土) 西脇市から「ゆずり葉散策路」の視察について (会長より報告)
- (5) 7/27 (火) 「平成 22 年度第 1 回野上児童館運営委員会」について (事務局長)
事務局長代理出席 委員会内容を報告。
市が建設したあとその運営は「聖隷」に丸投げしている。
この地区には 4 コミュニティあるが実質 2 自治会が実権を握っている。
「育成会」のあり方もこのままでよいかなど運営方法について問題点、疑問点が数多くある。
- (6) 9/10 (金) 「ゆずり葉だより」61 号発行の原稿募集締め切り (事務局長)
9/28 (火) 配布 10/1 (金) 発行の予定。
- (7) 9/25 (土) 雨天順延 26 (日) 逆小運動会「ラケットにボールのせ競技」
(活動局長より説明)
- (8) 10/23 (土) 「ゆずり葉まつり」について (活動局長)
資料 6 / 1 1 にもとづき活動局長より説明
- (9) 宝塚市立宝梅中学校創立 50 周年記念事業について (会長)
その後要望が来ていない。

《 議 案 》

- (1) 「まちづくり計画の見直し」について (会長より説明)

★ 資料 4 / 7 ~ 7 / 7 頁

まちづくり計画進行管理チェックシート IDNO.550~585 を 549~582 に変更
施策番号 17~49 を 16~48 に変更 新たに IDNO.585 施策番号 49 協働を挿入
今後とも進行状況にあわせて適宜見直しを行う。

本議案満場一致で承認

** その他事項について

- 1 ラジオ体操 みんなの体操会 8月 25 日 (水) 午前 5:50~
コミュニティとして参加したい。(活動局長より提案)
- 2 光が丘バス増便について~今後更に検討する。(黄地委員より説明)
- 3 「緊急対応ノート」について
10 月に完成予定 @¥ 1 0 0 (活動局長より説明)

以上